

百六里庭と眺関亭：小さな公園と展望台

関宿のほぼ中央に位置する百六里庭は、小さな公園で、その名前の由来は東海道の終点である江戸の日本橋からの距離です：106 里（約 424km に相当）。かつてここにあった古い家屋は取り壊され、かわりに来訪者が座って休憩したりお弁当を食べたり雨や日差しを避けたりできる小さな公園となっています。（この公園は、防火帯という重要な実用的役割も備えています。）この公園の見どころは、2 階に小さな展望テラスがある眺関亭という建物で、ここからは屋根の向こうに広がる東西の素晴らしい景色が楽しめますー山々と京都があるのは西、東京は東の方角です。

江戸を行き来する大名たちを庶民が見下ろすのは好ましくないとされていたため、宿場町の建物は多くの場合低めに建てられていました。関宿の家屋の大半は二階に虫籠窓がついており、目の細かい格子戸の隙間から前方を見晴らすのは難しいため、展望台から見える鳥瞰的な景色は、江戸時代の住人たちは決して味わえなかったものなのです。

西側に見える、関宿で最も高い建物である関地蔵院の急勾配の屋根は、特に印象的です。地蔵院自体は 741 年に開かれましたが、現在の建物は 1700 年に建てられたものです。その向こうに広がる山の稜線は、東日本と西日本を隔てる自然の境界線であるため、関は、彼方に見える天皇の住む都と周辺地域を警護するための関所である鈴鹿関を置くのに理想的な場所でした。鈴鹿関は奈良時代（710-794）に設置され、関宿の名前の由来となりました。